

連携で進める 「キッズISO14000プログラム」

三重県では、平成17年6月に策定した「三重県環境保全活動・環境教育基本方針」を踏まえ、多様な主体が協働・連携することによって環境保全活動の輪を拡げていくため、学校、企業、NPO、行政が連携した取組として、「キッズISO14000プログラム」を用いた環境教育の実践活動を推進しています。

キッズISO14000プログラムは、小学校児童の家庭において、電気、ガス、水道などの省エネルギー活動や、ごみの削減、リサイクル活動などの取組を、子どもが環境リーダーとなって家族全員で実践し、環境への関心を高めるものです。

この取組は、企業がCSR（企業の社会的責任）の一環として、NPO法人国際芸術技術協力機構（Artech：アーテック）が開発したワークブックを学校に提供するとともに、企業内に子どもたちが取り組んだ活動結果を評価するインストラクターを養成し、子どもたち一人ひとりに評価書を返すことを特長としており、学校は子どもたちにワークブックの進め方を説明し、行政は事業コーディネートやインストラクター研修会を開催するなど、各主体の協働により実施しています。

平成18年度は、企業3社（株式会社東芝セミコンダクター社四日市工場、富士ゼロックス三重株式会社、京セラミタ株式会社玉城工場）の協力を得て、モデル的に3市町（四日市市、津市、玉城町）の5つの小学校で、約250名の児童が取り組みました。

今後は、地元地域との環境コミュニケーションに積極的な企業など、さらに多くの企業からの協力を得て取組市町や実施校を拡大していくとともに、インストラクターの育成等による県内のワークブックの評価体制の整備を進めていきます。

